

9 / 4(水)に、全校研修「数学科パッケージ研修について」を実施しました。本研修では、大阪府教育センター カリキュラム開発部 支援教育推進室の指導主事に来校して頂き、本校教員が実施する授業についての指導助言を頂きました。



最初に指導主事より新学習指導要領の概要とポイントについてご説明して頂きました。今後、子どもたちを取り巻く環境がますます変化することが予想される中で、「育成をめざす資質・能力」「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学びの実現」「カリキュラム・マネジメント」といった観点を重視する必要があるとのことでした。そして、今回は特に「主体的・対話的で深い学びの実現」に焦点をあわせてパッケージ研修の授業案を見て頂き、指導助言を頂きました。

今回のパッケージ研修は数学科が担当しています。「はかる」ことをテーマに授業を実施する計画を報告しました。2つの容器のうちどちらの水量が多いかを調べるため実際にコップ何杯分の水量になるかを調べたり、2つの図形の辺の長さを比較したり、プリント学習において2つの容器の水量を比較したりする取り組みの内容を発表しました。学部間の連続性や生活に役立つ知識や技能を身に付けることを意識した授業となっています。

指導主事からは、数学的な見方や考え方を活かしてどのように問題を解決するのか、どのように生活に活かすのか、といった視点を取り入れることがより深い学びに繋がるとの助言を頂きました。

今後も学校全体として「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業づくりに取り組んでいきたいと思っております。